

【心理学専攻】

<教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）>

1年次には、総合教育科目を通して心理学の研究に必要とされる科学的視点の基礎を身につけ、語学科目を通して研究の遂行に必要とされる外国語の読解力や表現力の基礎を修得する。2年次以降の3年間は専門教育が中心的であり、心や行動のさまざまな側面を幅広い観点から深く理解できる教育課程を編成している。

具体的には、知覚・行動・学習・認知・発達・生物・神経心理学などの諸領域を特に重点化し、2年次には、各領域における基礎知識を身につける。加えて、英語で書かれた文献を読み込むテクニックを身につけるための「アカデミックリーディング」、データ解析能力の基礎の修得を目的とした「心理統計」、実験技法の基礎を学ぶ「心理学研究法」の各科目を必修科目として開設している。3年次には、現代の心理学が今ある姿になった経緯を理解するための「心理学史」に加え、実験心理学のより高度な知識の修得と卒業研究に必要な実験的技法やデータ解析法の修得を目指した「心理学実験」を設置し、実践的な体験を通じた、より専門的なレベルの教育を実現している。また3年次からは、研究会（ゼミ）に所属し、さらに専門的な知識を身につける。4年次には、基本的に3年次と同じ研究会に所属し、独自の研究テーマを設定し、自分自身の手で実験やデータ解析を実施し、卒業論文としてまとめる。これらの必修科目の他にも、言語・感性・感情・動物・臨床・障害・司法など、必修科目では補いきれない心理学領域の知識を身につけるための選択必修科目を複数設置し、総合的な知識と技術の修得を目指している。全体を通して、学生のニーズに柔軟に対応できるようなカリキュラムが実現されている。